



『サポマネ※通信』では、サポマネ研修事務局からの情報発信として、バリアフリーに関する最新の動向や、研修の開催情報などを定期的にお届けします！

※「サポマネ」は、交通サポートマネージャー研修の修了者に対して認定する「交通サポートマネージャー」の略称です。

今後の開催予定

❖関西2回目

【日程】2024年2月1日(木)、2日(金)

【会場】大阪国際交流センター

(大阪府大阪市天王寺区上本町8丁目2-6)

❖上級研修 ※サポマネ研修修了者対象

【日程】2024年3月14日(木)

【会場】飯田橋レイナービル

(東京都新宿区市谷船河原町11番地)

※一部オンライン聴講も可能です

最新情報はWebサイトをご確認ください



講師コラム

【講師】石田 義典 (NPO法人 ちゅうぶ)

石田さんは、大阪にあるNPO法人ちゅうぶのご所属で、障害者の自立生活の支援や障害者の社会参加に向けたまちづくり、差別ゼロ社会の推進に関する様々な企画や活動に取り組んでおられます。

サポマネ研修では、関西地区の研修がスタートした当初から車いすの実技や手話の時間を担当して頂いており、受講生がわかりやすく、楽しく取り組めるように毎回工夫を頂いています。

■ サポマネ研修で担当していること

40年前のバリアだらけの時代から車いすを押しています。所属団体では、道頓堀周辺に600人が集まって遊ぶ「なんばおにごっこ」、観光地のバリアフリー化などに取り組んでいます。

関西地区のサポマネ研修で、車いすの介助と簡単な手話の実技講習に携わっています。車いす介助の実技では、主に前半の基本を学ぶパートを担当していて、後半は受講生が階段介助、バス乗降介助、コミュニケーション演習の3つをローテーションで回っていく内容にしています。

■ サポマネ研修の実技で工夫していること

当初は一人で車いすの実技を担当しており、会場外に出て車いすで段差やでこぼこ道の体験をしてもらっていましたが、会場や天候によってルート設定が難しくなるため、現在は屋内で段差パレット※を使って実技を行っています。パレットも、表面が穴あきのプラスチック製(ベニア板を貼りフラット化)、表面がフラットな段ボール製(過重でたわむ)、プラスチック製と進化しています。 ※フォークリフトで貨物を運ぶためのもの

受講生は鉄道、バス、車いすを押したことがある人、ない人などさまざまで、体格的にもいろいろな方がいるので、30分程度の実技の中で何を体験してもらうか、何を感してもらうか、毎回、試行錯誤です。最近、車いすでの1~2cmの段差越え体験や、車いすに乗ってる人の体重が重くなる体験、11人乗りエレベーターに車いす使用者が2人乗れるかどうかの体験もやっていますが、時間が限られるため毎回少しずつ変えています。車いすは『前輪を上げて段差を越えること』が一番重要なので、会社に帰ってから復習をしてもらえれば幸いです。

手話は当初、自分の名前を指文字で表すことをやっていたのですが、受講生から「指がつる！」といった声があり、現在は都道府県名の手話を中心に「手話って面白い。難しくない。」と感ってもらうように工夫しています。



受講者の取組紹介

地域の障害者と連携した乗車体験会の開催 (阪急バス株式会社)

2023年10月に茨木営業所で地域の障害者と乗車体験会を開催しました。

体験会には電動車いすをご使用の方、手動車いすをご使用の方、視覚障害のある方が講師として参加し、車いすをご使用の方の乗降介助の実習、言語障害のある方とのコミュニケーション実習などを行いました。また、視覚障害のある方への声掛けは後ろからではなく前から行うことなど、当事者講師から実践的な内容も教えていただきました。

この研修は、コロナ前までは毎年開催していましたが、ここ数年は開催できておらず、久々の開催となりました。なお、茨木市内を運行する他のバス事業者にも参加を促し、総勢80名が参加しました。

参加者のアンケートをみると、言語障害のある方とのコミュニケーションは、わかるまで聞きなおしてよいことを学んだ、接遇やコミュニケーションの重要性を学ぶ機会になった、などの意見がありました。

この他にも、営業所単位で地域の障害者団体等との乗車体験会を開催しており、サポマネ研修の講師にも多数ご協力を頂いています。



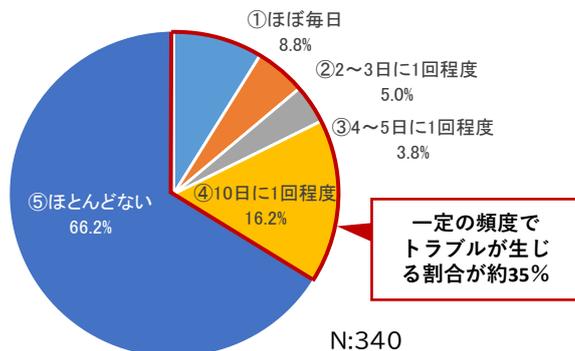
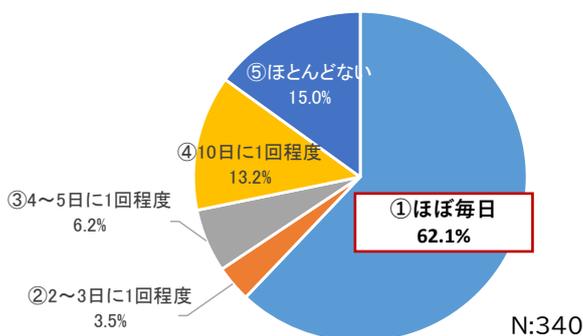
トピック

●バス・鉄道事業者への対応困難事例調査を実施しました。

日々の業務で直接お客様と接している鉄道・バス関係者を対象に、障害のあるお客様や高齢のお客様等に対する接遇やバリアフリー対応等に関する困難事例の実態、課題・困りごと等を調査しました。

問 お手伝いや配慮が必要な方の利用頻度

問 バリアフリー対応に関する困りごとやトラブルが生じる頻度



お手伝いや配慮が必要な方の利用は「ほぼ毎日」という回答が6割以上と“日常的な利用がある”こと、さらに一定の頻度でバリアフリー対応に関する困りごとやトラブルが生じている実態が把握できました。

困りごとやトラブルの内容が複雑化している状況も確認できたため、調査で収集した事例等をサポマネ研修に活用して、研修内容の充実を図っていきます。